

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4490600014		
法人名	医療法人 末広		
事業所名	グループホーム無量寿 山茶花		
所在地	大分県臼杵市末広915番地		
自己評価作成日	平成22年11月15日	評価結果市町村受 理日	平成23年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://ap.oita-kaigo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4490600014&SCD=320>

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成22年12月9日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

これまでの理念「お一人おひとりを大切に、楽しく生き生きとした生活が送れるよう」「皆様の思いや希望、意向を理解して、生活の質を高めるよう」「住み慣れた地域でみなさんと支えながら健康的で心地よい生活が送れるよう」支援することをふまえた上で、今年度「地域との絆を大切に、心穏やかに家庭的な生活が送れるように支援致します」を理念に掲げ、そのために色々なボランティアの方に来ていただいたり、地域に出かけたり、行事に声を掛けて参加して頂いて、ふれあいを大切にしています。また本人本位で、その人らしい生活が送れるよう、好きな事、したい事、出来ることを見極め、一人ひとりに寄り添った支援、出来る限り自立した生活が送れるようケアプランに基づき統一したチームケアを目指し職員一同努力しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

- ・理念を職員全員が共有し、それに沿って利用者本位のケアを実践している。
- ・職員育成のため内外の研修に積極的に参加できる仕組みがあり、ケアの統一と向上へ繋げている。
- ・食事は3食手作りしており、季節感があり、栄養バランスのとれたものである。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に密着して、その人らしく安心して生活できるように、職員各自が考えた理念・キーワードを持ち寄りそれをまとめて理念作りをし、いつも見える所に掲げ、念頭において職務に努めている。	理念は年度ごとに職員全員で話し合って作成し、実践に繋げながら日々のケアを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	フルーツ・大正琴・踊り等のボランティアの方、民生委員の方、お寺、保育園園児などいろいろな方が訪問してくださって交流をしている。	ボランティアや保育園児の訪問があり、また地域の寺院の僧侶が法話に訪れている。また、敬老会を通じて地域の方々へ声かけをしてもらい、ホームとデイケアが合同の行事に参加をもらうなどの交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ふれあい敬老会を開催し、地区の民生委員、敬老の方、隣保班の方々等を招待し、一緒に食事、演芸などを楽しんで頂きながら事業所、認知症についても理解を深めた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を行い、利用者の状況、行事、取り組みについて報告している。指導内容は職員に伝達しており、早速、転倒転落アセスメントについての指導について取り掛かり、家族に説明、理解を得ている。	運営推進会議のメンバーの意見などにより、転倒アセスメントの見直しを年2回行うようにするなど、サービスの向上へ向けた取り組みを行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設長は、毎月自立支援法による障害者区分認定審査会に出席し、市の情報を入手。居宅支援事業所のケアマネ4名も毎月日杵市に呼び出され研修を受けている。運営推進会議には毎回、包括の職員が参加し情報提供を受けている。	市の担当職員が研修案内を積極的に知らせてくれるなど、日常的に協力・連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	協力医療機関である白川病院と連携して、身体拘束廃止委員会に出席後、職員に伝達、報告。また研修会に参加、カンファレンスで資料による勉強を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	年数回、定期的な研修会へ参加、カンファレンス時に事例検討を行うなどして職員全員で身体拘束をしないケアの統一を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	運営推進会議で包括の方や弁護士より話、指導があり職員に伝達をしている。毎月行うカンファレンスでも資料により勉強をして、注意、防止に努めている。		

事業者名:グループホーム無量寿 山茶花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設長が指示している。運営推進会議に3回/年弁護士さんに出席して頂き話し合いの場を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項や契約書の説明、施設内を見学して頂いている。また分からない事、不安な事等などは気軽に話して頂けるよう声を掛け、理解、納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に御意見箱を設置、また面会に来られた時は、管理者、職員が気軽に声を掛け、日頃より意見や要望などを聞くように努めている。また運営推進会議に家族に出席して頂き、意見、要望を伺い職員で共有できるように努めている。	家族には、面会時に話を聞いたり、運営推進会議に3家族が交代で参加したり、定期的に発行する「便り」での報告などしている。利用者本人に対しては、満足度アンケートを行い、意見を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長は、よくグループホームに来て職員と話しをする機会を設けている。また毎月のカンファレンスではほぼ全員の職員と施設長が出席しており意見交換を行い運営に活かしている。	施設長・管理者・職員の連携がとれており、毎月のカンファレンスに全職員が参加できるような体制のもと、職員は積極的に意見を述べ、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長は日頃よりグループホームによく来てくれる職員は、職員の状況把握をし、また勤務体制、職場環境(更衣室・ユニホーム)などについても気を配ってくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種の研修や勉強会、グループホームの交流会などへの参加を積極的に受け入れ、勧めてくれており参加している。また資格取得への協力体制も整っており、新たな介護福祉士の資格取得者もいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム交流会に交代で職員が参加している。また県内のグループホーム交流イベントにも参加を勧めていただいております。積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談に来られた家族・本人の話を十分に傾聴し、理解に努めている。また施設内を見学して頂き、不安の軽減、内容の把握・より理解していただけるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の不安や心配など傾聴し、出来る限り要望にそえ、良い関係づくりが出来るよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	精神科医である施設長が、相談に応じ診察し、その他のサービス利用も含めて本人にとって最良と思われる選択を家族と相談している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話を多く持ち、寄り添い喜怒哀楽を共に感じあうように努めており、出来ることは一緒にしてもらっている。(食事の下ごしらえ・洗濯物干し・お膳拭きなど)			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来た時は、出来るだけ声を掛けて現状を伝えたり、介護プランなどに意見や要望を伺い相談している。また毎月、無量寿便りと一緒に本人の写真を送り、近況を知らせ職員、家族が共に支えていけるよう努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族やその他親戚の方などが来た時は、関係を知り、時には話を一緒に聞いたり、ゆっくりくつろいで頂けるような環境提供に努めている。	入院中の妻の見舞いや墓参り、昔馴染みの散髪屋が訪問理容を行ってくれるなど、馴染みの関係継続の支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席替えをしたり、会話に職員が入ったり、レクリエーションを行い、利用者同士が関わりあえるように努めている。			



事業者名:グループホーム無量寿 山茶花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方や家族の方に、これまで通り声をかけ、その後の様子などを伺い、相談があれば応じるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ会話をし、思いや希望を把握できるように努めている。また毎月、担当職員がモニタリングを行いアセスメントし、カンファレンス等で検討している。	日常のケアや会話の中から思いや意向を把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時などに確認、またセンター方式を継続して取り入れており、把握やサービスに役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当職員が中心に、毎月のモニタリングで観察、把握しカンファレンス等で職員が情報、状況を共有できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを行いカンファレンスで職員で話し合い介護計画を作成している。本人、家族、受持ち、他職員、管理者、主治医からも意見をきいている。	利用者の状態や様子を具体的に把握できる様式を用いて、毎月担当職員がモニタリングを行い、カンファレンスで話し合いをしながら介護計画書に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌、個別の記録を毎日行い職員間で情報の共有、交換が出来るようにしており介護計画に反映するよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	変化があれば家族に連絡をし計画の見直しをしている。またリハビリ、脳トレ、塗り絵、読み聞かせなどその人の希望や出来ることなどを工夫し支援している。		

事業者名:グループホーム無量寿 山茶花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の方や民生委員、色々なボランティアの方に来ていただいたり、住職様、保育園児、などの協力もあり豊かで楽しい生活が送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調の悪い時は、かかりつけ医を受診できるよう援助している。整形外科受診中の方に対しても日頃の訴え(痛み)を家族に伝え適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者全員、隣接する併設病院がかかりつけ医であり、月2回の定期受診を行っている。その他専門の病院には基本的に家族が付き添い、緊急時などはグループホームの職員が受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師で日々の関わりから健康状態を把握、また介護職より変化について報告、相談を受けている。病棟、外来看護職とも連携し、受診、看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院、他科病院受診時などは、安心して治療が受けられるよう連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師である施設長が必ず、本人や家族に説明、相談し、意向を確認している。職員も情報を共有し、本人や家族の意向に添えるよう配慮した援助をおこなっている。	看取りは可能であることを本人や家族に説明し、職員の共有も出来ている。施設長が、本人・家族の希望に応じて支援を行うよう話し合いをしながら対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設長や管理者、他医療職より緊急時の対応について指導されている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成。定期的に防災訓練を行い、地域や消防署とも連携し協力体制をとっている。	消防署と連携しながら、年2回、定期的に防災訓練を実施している。また、隣接する病院に緊急時連絡用の機器を新規に取り付け、協力体制を築いている。	

事業者名:グループホーム無量寿 山茶花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の社会的状況、家族内の役割などを考慮し、コミュニケーション内容、言葉掛けなどを行うよう努めている。個人情報保護についても研修を受け、配慮して接している。	個人情報保護の取り組みなど定期的な内部研修を行っている。プライバシーに配慮し、日常的な言葉かけやケアを実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話を傾聴し、生活の中でしたい事、好きな事、食べたい物などの希望を表出できるように働きかけをするよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせ、押し付けにならないよう過ごせるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを聞き、その人らしい身だしなみが出るよう支援している。定期的に来て頂いている化粧レクは大好評で女性の利用者には大変好評です。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食べたい物、希望を聞きながら献立作りをし、利用者にも皮むきや野菜切りを手伝ってもらったりしている。食事は利用者と職員と一緒にし、テーブル拭きやお膳拭きを手伝って頂いている。	日常の対話や年2回のアンケートで希望を聞くなどし、好みや季節感を取り入れたバランスの良い献立としている。利用者も各々ができる範囲で協力し、3食ともホーム内で調理している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養や水分がバランスよく十分に摂れているか、摂取量のチェックをし、嚥下状態や好みに合わせて個別に食事の形態を工夫、時に栄養士に相談をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の前後のうがい、歯磨きや就寝前の歯磨き、義歯の手入れの声掛け、介助を行っている。毎月のモニタリングでも口腔の状態を観察、記録をするようにしており委員会にも出席し職員に報告をしている。		

事業者名:グループホーム無量寿 山茶花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりのレベルで排泄の自立に向けて、アセスメントし、計画し援助を行っている。	トイレの表示の工夫や、利用者のサインの把握、チェックシートの利用などを行い、日中はオムツをしないケアを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が健康や周辺症状の悪化につながることを職員は理解しており、便秘にならないよう食事、水分、運動に配慮している。また必要に応じ緩下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者がゆっくり、気持ちよく入浴できるように個別に援助しており、健康状態によっては清拭、足浴などで対応している。	入浴は、利用者の希望に添いながら毎日入れるように対応し、最低週2回以上になるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調を考慮し午睡を促したり、眠れない時は、居間で補食、水分補給、コミュニケーションを図るなどし、本人が納得して入眠を促すよう援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に内服薬をファイルしており、いつでも確認できるようにしている。個別に服薬介助、確認も行っており服薬後の観察も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	運動、テレビ、脳トレ、塗り絵など好きな事、出来ることなどを取り入れたり、洗濯物たたみ、裁縫、お膳拭きなど、出来る方には生活暦を生かし役割を担うことで張り合いのある生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は外でお茶を楽しんだり、散歩を行っている。また春はお花見、初夏はドライブ(三重の塔・仏舎利塔では説明を受ける)、秋は買い物(海見学)を行い、買い物には家族の方も誘って一緒に買い物を楽しみ、知り合いの方とも会うことができた。	2~3ヶ月毎にドライブで遠出をしている。また、日常的に外で体操したり、お弁当を食べるなどの工夫をしている。	



事業者名:グループホーム無量寿 山茶花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族が望まれている方は、多額過ぎない額で持たれている。買い物は希望に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話や携帯で、電話をしている。出来ない方は職員が代わりにかけたり、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	赤い絨毯に薪ストーブで居間全体にぬくもりが感じられる。また季節の花を飾ったり、中庭にはイルミネーションが飾られ季節感や心地よさを感じて頂いている。	食堂ホールは、天井が高く開放感があり木の温もりがある。また薪ストーブがあり、冬の寒い季節でも柔らかな暖かさが感じられる。炬燵がある和室もある。ホールや廊下には季節感のある飾り付けや絵画、利用者の写真などが飾られている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間で過ごす時は、自分の席以外にも長椅子を設置しており、他の利用者や職員とも一緒に過ごしたり、畳のある所で腰掛けて共用空間の中で一人で過ごせる居場所を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた椅子や家族と一緒に過ごした写真を飾ったりして心地よく過ごせるように工夫している。	使い慣れた家具、趣味や思い出の品々、家族写真等各自の個性が感じられ、落ち着いた居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで手すりがあり安全になっている。利用者ができるだけ自立して移動や排泄が出来るよう分かりやすくしている。		